

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	広島大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ヒロシマダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中国・四国地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	地域社会探検プロジェクト-インターンシップ・ボランティアを体験してみよう-
	学部・研究科等名	グローバルキャリアデザインセンター
	担当教職員名・役職	森 玲子・教授
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	13
	受入企業等数	8
	受入企業等名	公益財団法人広島平和文化センター 地域福祉支援センターときわ くぐり門珈琲店 広島市男女共同参画推進センター 東広島ひとむすび 東広島市観光協会 広島管財 株式会社 サンキ・ウエルビィ株式会社
インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	当該インターンシップは、社員等の指導を受けながら企業等における就業体験を行っている。具体的には、社員と同じ時間に出勤し、業務の一部を体験している。この体験を通して、実際の仕事内容についての理解を深めることが可能である。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次~3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本授業は、教養教育科目として実施している。2018年度からは社会連携科目として開講している。実際の就業体験は、開講時期により、夏休みの長期休暇中の実施の場合と、授業開講中の土日や空き時間での実施の場合がある。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	

③	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ開始前に教員が学生とともに出向き、打ち合わせを実施。期間中は、必要に応じ、教員が学生と連絡を取る。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習は、次の2点で構成されている。まず、1. 地域・社会について知る講義。2. インターンシップ・ボランティアの進め方及び事前研修にあたる講義。1では、大学での学習の位置付けを学ぶと共に、地域社会の現状と課題について、学生自身が調べた上で話し合いを行う。2では、各自が参加する組織について調べる。また、インターンシップの意義と目的について明確にし、社会人としてのマナーについても学習する。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習中は、毎日実習の記録をつける。それに基づき終了時点で、個人の振り返りをまず行う。それをクラスに持ち寄り、お互いの情報交換及び話し合いを実施する。報告会での個人発表及び最終レポート提出をもって、各自の成果と課題を明確化する。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ開始前に、教員が学生と共に受け入れ企業等に出向き実習内容の確認等を行う。実習中は、電話やメールで学生からの相談を受けるとともに、必要に応じ面談を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ実施前には、キャリア教育・キャリア発達に関する講義を複数回行っている。その中でアンケート及び汎用的能力を測定するテストを実施している。インターンシップ実施後には、アンケート及びテストを再度行い、その変化を明らかにし、それを学生にもフィードバックしている。それらを通して、学生自身が今後何に取り組むべきかを把握できるよう指導している。	
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間15日(うちインターンシップ実施期間3～5日)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業等におけるインターンシップ実施期間については、個別に受け入れ企業と調整をしている。受け入れ企業の規模や、実施時期及び人数等、企業の都合もあり、連続した5日間以上の確保が難しい場合もあり、講義全体で2単位分の授業時間を確保している。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	まず学生受け入れ企業の募集にあたっては、本授業の目的・趣旨等について詳しく説明している。その上で、教員が学生の興味・関心に応じた企業を選択し、実習計画の立案にあたり、企業担当者と意見交換を行う。実習中、学生は企業担当者の指導を受ける。実習終了後は、直接企業担当者の声を聞くことで、事後学習での指導内容についても、調整を行うよう配慮している。
7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み	
問い合わせ	大学等名	広島大学
	担当部署名	グローバルキャリアデザインセンター
	担当者役職名	教授
	担当者氏名	森 玲子
	電話番号	082-424-6988

先	メールアドレス	reimori@hiroshima-u.ac.jp
---	---------	---------------------------